2023 年６月 25 日
関西３空港懇談会

第 13 回関西３空港懇談会　報告

１．現状認識

・関西３空港の運用状況について、国内線は、３空港とも概ね 2019 年頃の状況に戻りつつあるものの、中軸となる関西国際空港(以下、関西空港)の国際線は、旅客数が 2019 年比で６割程度の回復にとどまるなど、未だ本格的な回復には至っていない。今後、早期の回復を目指すためには、インバウンドやアウトバウンド、更にはビジネス需要の復活などが必要であり、関西としては、こうした需要を確実に捉え、国際的な都市間競争に勝ち抜くための大きな足掛かりとしていかなければならない。

・また、開催まで 2 年を切った 2025 年大阪・関西万博の成功とその後の関西の成長に向け、前回(第 12 回)懇談会の合意(関西空港の容量拡張、神戸空港のあり方)を着実に進めていく必要がある。

２．関西３空港の更なる飛躍に向けて

・関西空港については、一日も早い回復はもとより、さらなる成長に向け、関西の自治体・経済界等における観光・ビジネス振興策等を内容とする「関空成長支援プラン」をとりまとめた。

・同プランをベースに、関西の官民が一丸となって取組みを進めるとともに、関西エアポート社が進めている「第１ターミナルの大規模改修」など、万博に向けた万全な受入体制の整備に取り組む。

・神戸空港については、関西エアポート社および神戸市において、万博に向け、ターミナルやアクセス道路の拡充等を進めている。また、関西空港・伊丹空港を補完する観点から、引き続き、関係者が連携し、神戸市以西の需要開拓に積極的に取り組む。

・伊丹空港については、2019 年の本懇談会の取りまとめに基づき、今後のあり方について必要な議論を行っていく。

３．関西空港の容量拡張・神戸空港のあり方の実現に向けて

・本懇談会からの要請に基づき、関西空港及び神戸空港の現行飛行経路に関し、国において、安全の確保を最優先に、「公害のない空港」という海上空港の基本理念を尊重しつつ、必要最小限の範囲での見直しを検討され、その結果が示された。

・今後、本懇談会の合意の下、大阪府・兵庫県・和歌山県の共同により、学識経験者で構成する環境検証委員会を設置の上、国から示された内容について、客観的・科学的な見地から、環境面への影響など必要な検討を行う。その上で、関係者においては地域の理解を得ることを基本に、緊密に連携・協力し、2025 年万博開催時に実現できるよう、2024 年の懇談会において、地元としての見解をとりまとめることを目指す。

以上